

1. 会議名	令和6年度 第4回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	令和7年2月5日(水曜日) 14時～16時
3. 開催場所	出雲市役所本庁 6階 全員協議会室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>原 広治委員(会長)</p> <p>本田一勇委員、吉井安見委員、田村尚基委員</p> <p>槇原綾子委員、今若久美子委員、糸賀元次委員</p> <p>野井美香委員、上野貴幸委員、渡部英二委員</p> <p>飯塚由美委員、佐野美保委員、廣戸悦子委員</p> <p>原 久子委員、甲山美紀恵委員、堀江泰誠委員</p> <p>梅野名美子委員、高橋義孝委員</p> <p>(欠席)</p> <p>高橋恵美子委員(副会長)、芦沢隆夫委員、</p> <p style="text-align: right;">(以上、順不同)</p> <p><事務局></p> <p>子ども未来部長、子ども政策課長、保育幼稚園課長</p> <p>健康福祉部次長(福祉推進課長)、健康増進課長</p> <p>市民文化部次長(市民活動支援課長)、縁結び定住課長</p> <p>児童生徒支援課主幹、市民活動支援課係長ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和7年度の認可保育所等の定員について</p> <p>(2) こどもえがおプラン～出雲市こども計画～(最終案)について</p> <p>4 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	<p>I 開会</p> <p>定刻に開会。</p> <p>[会議成立]</p> <p>委員20名中18名が出席し、出雲市子ども・子育て会議条例第6条第2項により、定足数を満たしていることを報告。</p>

<p>会長</p>	<p>〔会議の公開について〕</p> <p>本会議は出雲市子ども・子育て会議規則第3条第1項の規定により、公開で行うことを説明。</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>委員の皆さん、こんにちは。</p> <p>子どもたちの環境も日々変わっており、先般この会議の冒頭で不登校の子どもが多くなっているという話をしました。先月、自死する子どもが全国でも増加しており、その中でも小中学生が多かったという記事も出ております。そういう生きにくくなった社会において、我々が今考えている「こどもえがおプラン」というのは、とても重要な役割だと思っております。</p> <p>先月、山陰中央新報の記事に児童クラブ支援員の方への声が掲載されており、児童クラブは地域の宝を育てるというテーマでしたが、こうした活動を通して自分たちも育てられているんだという趣旨でした。こどもが育つための計画ではありますが、それに関わる市民一人ひとりも育つ、大人も育つ、そんな計画になればいいなと思っています。</p> <p>本日、それぞれのお立場からご意見をたくさん賜りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>3 議事</p> <p>(1) 令和7年度の認可保育所等の定員について</p> <p><資料Iを用いて説明></p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。ただ今の説明に対して、ご意見、ご質問があればお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>今回、定員改定という形でお示しいただきました。現在、全国、島根県内、そして出雲市内も人口減少という形で少子化が進んでいるという現状がございます。また、地域によっては保育園に入園させという方が増えているところもございます。やはり地域によって適宜、定員改定をお考えいただきながら、今後の保育園の経営を継続させていただきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>待機児童数の減少を目指すということですが、入園できる児童数は園の広さや指導される先生方の人数で決まるのでしょうか。</p>

事務局	<p>定員は、預かる人数の配置基準があり、まずその基準に合った保育士を配置いただきます。さらに施設の面積基準があり、それによって定員が決まります。</p> <p>現在、出雲市は定員の弾力化ということで120%まで受入可能にしていますので、施設ごとに体制を整えればそこまで受入をしているということになります。</p>
委員	<p>きちんとした意見ではありませんが、現在孫がおり、先生方の入れ替わりが激しいので心配だなと申しております。園児はまだ学ぶというところまではないですが、育ちをしっかりと支えていただけるような環境が保たれるといいなと思って聞いておりました。よく全国的なニュースでも見たりしますが、出雲市もそういう状況なのかなと思い、すごく心配になりました。</p>
事務局	<p>適切な保育については、それぞれの保育所や子ども園などで実施いただいており、今のところ大きな問題は報告されておられません。ただ、先ほど言われた保育士が早く辞められるなどの問題はよく聞いており、賃金等の待遇の面やなかなか休みが取れないといった状況も聞いております。また、保育士の募集をかけても集まらない状況です。現在、保育士の研修や派遣費用を負担するなど、対策を少しずつ実施しているところです。</p>
委員	<p>やはり現場で働く保育士あるいは幼稚園の先生方が一番大事ではないかと思います。いくらいい計画を立てても現場が動かないことには良くなりません。人手不足や賃金の問題もありますが、いい計画を推進して打破していかないといけないので、行政としては大変だと思いますが、そこは努力していただきたいなと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。この計画には記載されないかもしれませんが、計画を推進するためには今のようところがとても重要だと思います。出雲市では独自の研修をされていると思いますが、具体例があれば教えてください。</p>
事務局	<p>幼稚園と保育所が合同で年1回研修をしており、そのためのワーキング会議を年3回行っております。ワーキング会議は、研修の内容や保育所・幼稚園の活動のPRなどについて話し合う場としております。</p> <p>また、保育協議会に委託して、保育士確保対策の研修会を年1回、保育公開を年2回行っております。それぞれの保育所が実施されるものに幼稚園</p>

<p>会長</p>	<p>の職員が参加したり、逆に幼稚園の研究大会に保育所の職員が参加するなど交流させていただいたりしております。</p> <p>先ほど言われた職員が一番大事だということについて、配置基準は当然ありますが、それ以上に配置いただいた職員は加配の補助金や保育士への補助金、看護師や栄養士にも支援を独自でしておりますので、報告させていただきます。</p> <p>ありがとうございます。先生たちも育っていくというソフト面についても新しいものを入れながら取り組んでいただいているという状況ですね。他にございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、他に意見等がないようですので、次に参りたいと思います。</p> <p>(2) こどもえがおプラン～出雲市こども計画～（最終案）について <資料2を用いて説明></p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。前回委員の皆さまからいただきました内容について検討いただいたということでございます。これに関してご意見ご質問あればお願いいたします。よろしいでしょうか。</p> <p><質疑なし></p>
<p>会長</p>	<p>それでは、パブリックコメントの結果についての説明をお願いいたします。</p> <p><資料3-1、資料3-2、資料4を用いて説明></p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。パブリックコメント関係について、ご質問やご意見があればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>資料4の74頁、上から4行目の赤字で記載されている送り仮名は不要だと思いますが、赤字にする意味があるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見ありがとうございます。該当の箇所は現在文字の校正中で、（修正前の）青文字と（修正案の）赤文字が並んでおります。今後検討して正していきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1の4頁、意見を踏まえた修正内容の2番目、こども食堂の定義を今</p>

事務局	<p>一度明確にさせていただきたいという意見に対してどのような対応をされたのかお聞きしたいと思います。</p> <p>現在、子ども食堂は開催の頻度や回数、場所が様々となっております。市からも助成しておりますが、他の財源を活用したりなど、社会福祉協議会で把握していただき情報を共有しています。ただ、まだ明確な定義づけが難しいと思っており、今後子ども食堂や第三の居場所について研究させていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>ありがとうございます。対応の部分に今後検討していく旨を書くだけでも、ご意見をいただいた方への回答になるのかなと思いました。</p>
会長	<p>ご意見ありがとうございます。子ども食堂は、名前は子どもですが実は大人が行ったり、最近はおじいちゃんやおばあちゃんが行ったりするなど様々な要素が入ってきている中で、出雲市としてどう考えていくか検討していくということですね。</p> <p>他にあればお願いいたします。</p>
委員	<p>資料3-1の3頁、こどもの意見募集の(1)②で「安全で安心な道路を作ってほしい」と書かれていますが、5件あった意見のうち、基本的に街灯のことが書かれていたから街灯という限定的な書き方になっているのでしょうか。例えば、小学校の近隣でも横断歩道の白線が消えてほぼ見えない場所を見受けたりしますし、用水路の蓋が整備されている場所とそうでない場所が混在している地域もあります。安全で安心な道路を作るという観点からすると、街灯以外の要素もあるのかなと思いましたが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。資料5-2に意見の詳細を記載しており、9番目が「安全で安心な道路を作ってほしい」という意見をまとめたところです。</p> <p>そのうち、「歩道が安全で事故の少ない場所」という意見は、通学路の安全点検の関係であると受け止めております。通学路の安全点検については、既に計画に記載がありますので今回改めて反映したという扱いはしておりません。</p> <p>2つ目の「障がい者の人が困らない道を作ってほしい」という意見については、障がいのある方全てに配慮したご意見をいただいたと思っておりますが、障がいがある方全般にわたっての道路づくりについては、障がい福祉計画や障がい児福祉計画、福祉のまちづくり条例などで規定されて施</p>

委員	<p>策が取り組まれているところであり、こども計画に盛り込むものではないと判断させていただいたところです。</p> <p>3つ目の「街灯の数を増やしてほしい」という意見については、通学路の安全点検と同じ項目に類似の事業が掲載されておりますので、そこに言葉を入れることによって反映させていただいたということで対応案を作っております。</p> <p>ありがとうございます。こどもからの貴重な意見をそのまま反映したいという思いも伝わってくる回答でありがたいなと思いました。この間、実際に大津地区で照明灯が子どもに接触する事案も発生しているのです、より一層連携を強めて実施をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。続いてご質問があればお願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、資料の5について説明をお願いいたします。</p> <p><資料5-1、資料5-2を用いて説明></p>
会長	<p>ありがとうございます。今の説明にご意見ご質問がありましたらお願いいたします。</p>
委員	<p>資料5-2の34頁、「遊べる場所や施設などが欲しい」という意見について、こどもは身近に遊べる場所が欲しいと言っているのではないかなと思います。例えば、対応・回答に記載がある風の子楽習館はこどもだけでは行けません。どこにあるかは知っているけど、どうやって行くのでしょうか。また、だんだんとまとアリーナの無料体験プログラムの予約はどうやって取るのでしょうか。大人目線での内容になっており、せっかく子どもたちが書いてくれた意見ですので、現実的に考えていることが見えるといいのかなと思います。この意見に対してはこどもたちが求めているものと少し違うと思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。この回答はおっしゃる通り大人目線だなと今言われて気づいたところですので少し修正したいと思います。</p> <p>この意見の意図として、遊べる場所というのは外で遊べる場所だと思っています。市役所の南側にだんだん広場という広場がありますが、天気がいい日は放課後になるとこどもたちがサッカーや野球などで遊んでいる風景を見ます。そうした体を自由に動かせるところかなと思っています。私</p>

	<p>がこどもの頃は、天気が良ければ草野球など色々と遊べる場所がありましたが、今のこどもはどこでも遊んでいいわけではないですし、危険が伴う場所は親から駄目だと言われることもあり、のびのびと遊べる場所が欲しいということだと思います。これに対して市として何ができるか非常に悩ましいところではありますが、こどもの声を一旦受け止めた上で、何らか回答できるように検討したいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>市の方で情報発信をすごくしていると思います。私の娘たちはみんな小学校のこどもがいますが、こどもたちが帰ってきて、どこに行っていたのか聞くと、出雲科学館でこんなことがあったよ、とまとアリーナでこういうことしたよ、と色々と見つけて出かけています。わかっている人にはわかっているのに、広くみんなに伝わっていないのかなと思います。どうやって情報を集めているのか娘に聞くと、友達から聞いたり、学校からチラシをもらって帰ってきたりと言っているのに、情報発信はしているのだと思います。みんなが情報を得るにはどうしたらいいのかなと思ったりします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。資料には情報発信しているという文言がありますが、その工夫をさらに深めることに関係するかもしれません。</p>
<p>委員</p>	<p>私が学校教育や不登校関係の活動をしていることもあり、10番目の「学校生活・環境をよくしてほしい」という意見に注目してしまうのですが、その中で「5時間目で終わる日を増やしてほしい」や「もっと早く家に帰りたい」というのは本当に切実な願いだと思っています。私も実際に小学校・中学校のこどもがいて、高学年になると陸上大会や音楽連合会などの課外活動の関係もあって帰りが遅くなるのに宿題が多い。そうすると家族で過ごす時間が少なくなり、中には塾や習い事に行くこどもも多く、こどもたちは本当にゆとりがないなと感じています。</p> <p>この子どもから出た意見や願いに対して、各学校で生活時間や時間割の見直しを行い、皆さんが放課後にネット利用をして様々な学びを経験できるようにしていきますと回答が書いてはありますが、これでどう変わるのか、結果などを見ることができるようになっているのか。とてもいい取り組みをしておられるので、意見を出したけどそれで終わってしまうことがないように、こどもたちの貴重な意見を成果に結びつけてもらいたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、校長会の行った際に先ほどの話が出ました。全国的に夏休みや秋</p>

	<p>休みの設定、1日の学習時間についてどんどん見直しをしています。出雲市内でもたくさんの意見を交換しながら校長会で話し合ったところです。まだ本決定ではありませんが、教職員も子どもたちの学びの後をきちんと見てあげたいという気持ちもあり、子どもたちも学校生活を一生懸命に過ごしているので、14時や15時で帰れるようにしたいと話をしておりました。保護者からのご意見ということでお聞きしたので、来年度また動き出すと思います。</p> <p>先ほどからの話を聞いて、私は小学生の意見を取り上げてもらったことがとても嬉しいです。社会科など色々と勉強していると思いますが、机上学習ではなく、実際に自分たちが発信してリターンが来るという経験が大きな力になると思いますので、色々と工夫していただくといいかなと思います。</p> <p>市役所の南側のだんだん広場は、子どもたちがたくさん遊びに来ており、安全に遊べていいなと思っております。ぜひ継続していただくとありがたいなと思って聞かせていただきました。</p>
事務局	<p>先ほど今若委員からのご意見にあった、今後この対応がどうなったかという結果についてですが、子どもたちからは計画のわかりやすい版を見て、「今後どうなったか知りたい」という意見をいただいたところです。意見に対するフィードバックや今どういう段階にあるかは、通常は本会議で評価・検証した結果をホームページに掲載するというやり方ですが、子どもたちに向けては工夫が必要だと思っております。何らかの形で分かるような取り組みを検討していきたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ぜひそうしたフィードバックをしていただきたいと思っております。先ほど佐野委員からご指摘がありましたが、子どもが何か意見を出したら大人から返ってくるというのもありがたいことだと思っていますので、工夫していただきたいと思います。</p>
委員	<p>資料5-2の35頁、12番目に「公共交通を便利にしてほしい」という意見があり、実際にバスや電車の便数が少なくなっていると思います。私は大社町に住んでおりますが、中学生は一畑バスで通学しております。試験中はバスの便がなくて帰りたくても帰れず、保護者に迎えに来てもらう子どももいると思います。今後学校が統廃合され、スクールバスがない地域の子どもが路線バスで通学しないといけなくなれば、だんだんと不便になってくると思います。一人のこどもの意見ですが、大切にしていけないと思いました。</p>

	<p>また、次の36頁に「ジェンダー平等や多様性についてみんなに知ってもらいたい」という意見があり、やはりそうしたこどもたちがいるかもしれません。自分では言えない表には出せない、でも心と性別が違うようなこどもたちが今後出てくるときに、こういうのは大切にしていけない。何年か前に隠岐の島町の井手上漠さんが弁論大会の全国大会に島根県から出場しましたが、その人は男の子ですが女の子でもありました。発表された時、この子が全国大会に行くのではないかなと思うくらいの素晴らしい発表で、それは学校や家族が理解し認めてあげて学校にも行けた、不登校にならずに保護者が後押ししてくれたというのがあるので、今後そういうこどもが増えたときに対処できるような環境を作ってあげるのも必要かなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。実現を目指しますとこどもたちに言う以上は、そのあたりも一緒にやらないと意味がないということですね。今もやっておられますけれども、さらに進めていくということだと思います。</p>
<p>原委員</p>	<p>資料5-2の32頁、10番の「物価対策・中小企業の支援」に関する意見を18件もいただいています。「物価が低くなってくれればそれでいいです」や「最低賃金を上げて中小企業が困らないようにしてほしい」、「仕事の給料を上げる」という意見がこどもたちから出ています。また、31頁のところで、笑顔でいられるために必要なこととして「お金」と回答したこどもが52件あり、当たり前前の生活があると笑顔になれるということですよ。</p> <p>こうした意見がこどもたちから出てくるということで非常に意義があったと感じており、冒頭で保育士の不足や定着しないことについて賃金や休みなどの待遇も関係しているのではないかという話がありました。こどもたちも自分たちが笑顔で暮らせるためには、大人がまず笑顔じゃないとダメだと思っているということだと思います。配偶者に対してDVをするなどがこどもに大きく影響するため、困っているこどもたちはたくさんいるというのを改めて目の当たりにしたところです。こどもからこういった意見が出ていることをそれぞれが情報共有するなど、私たち大人の責任を感じました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。提示した内容から大人が考えていかないことがたくさんあるということですよ。今、言葉としてこどもたちが出してくれていることは学びが多いですが、例えば声が出ないこども、言葉として出さないこどもの声をどう拾って考えていくのかということ</p>

	<p>も、我々の役割の一つだと思います。子どもから意見をいただく発想はとても重要で、貴重なものをいただき、まさに宝物の言葉だと思ったところ です。</p>
<p>会長</p>	<p>今回は計画の見直しにあたってこどもの意見を取り入れるという意見募集だと思いますが、継続的に出雲市に対して子どもたちが直接意見を言えるような取り組みになるのでしょうか。まだ検討中なのか、また5年後にこのような意見を募集されるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。今回はこの計画を策定するにあたってこどもの意見を聞いたところですが、資料4の44頁にも記載しておりますとおり、 (2) こどもの意見を施策反映させるステップを実際に行いました。今後これをフィードバックしていくという流れですが、繰り返しやっていると意味がないと思っております。その方法については、今回こどもの意見が市全体の様々な施策にまたがっておりますので、私ども子ども部局だけではなく、市全体でこの取り組みをどう考えるかという仕組みづくりも含めて今後検討していく必要があると思っております。その中で既に実施している取り組みもどのように続けていくのか、今後の大きな宿題ではありますが検討しております。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。ぜひ小学生の意見が市に反映されるといいなと思っており、それは5年後にその子が中学生になっていたりして、繰り返しの企画として子どもたちにも提示していただければ毎年楽しみにするかもしれませんし、次のアンケートにはこれを書いてみよう、前回書いたアンケートはこうなっているのかと分かれば、またさらに意見が活発になるのかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>こどもの権利や防犯、居場所について10代の子どもから意見が出たのはとても大きいことだと思います。こどもの声はなかなか届きにくいものですが、こどもの意見を反映するということは高齢者や困難を抱えた方など全ての人の意見を聞くことにもつながっていくと思いました。</p> <p>こどもは大人ほど語彙が豊富ではなく、言葉でストレートに表現することもあれば、声にならない思いや表現しにくいこともあり、言いにくい思いをどのようにこちらが読み取れば良いのかも思います。こうしてこどもの意見を聞くことは、今求めている本当の気持ちを知ることができると良い取組だと思います。</p> <p>反映された箇所にマークが書いてありましたが、市民がどのように参画</p>

	<p>しているか見やすく非常に良いものだと思います。市政に自分の意見が活かされ、自分の意見を受け止めてもらえたということは、こどものその後の主体性や自信につながり、市政や出雲市への関心につながる良いことだと思います。</p> <p>幼稚園側としては、幼稚園でこどもの声を聞くということを実践する場合、眼差しや考え、信条などを尊重して大事にしていく姿勢がより大事になっていくと思います。現場でこどもの声を聞き、保護者と連携をとることや、関係機関との連携も意識していきたいと思います。また、小学校に上がるこどもたちもいますので、小学校と地域、関係機関とこどもの思いをつなぐ意味で、改めて園の今後の接続など意識したいと思いました。</p> <p>フィードバックについては、意見などを整理、デザイン化して配布する形でしょうか。</p>
事務局	<p>どのようにフィードバックしていくかについて、今回、一人一台所有しているタブレットで回答できるようにしたのが多くの意見が出た理由だと思います。まだ教育委員会と調整をしていますが、学校を通じてタブレットからフィードバックする方がよりこどもに届くのではないかと考えています。その他の方法についても少し検討していきたいと思います。</p>
委員	<p>まだこどもたちには理解が難しいかもしれませんが、園の中では日々の遊びの中で意見が言えるまでのたくましさや主体性、自信を育むというところで、満足感や達成感を味わって先につながるようにしていきたいと思います。</p>
委員	<p>私の地域では市内2つの小学校が統合され、4月から新しい環境で勉強が始まります。私もこの会議に参加させていただき、その重要性や困難性を勉強させていただきました。これから統合した新しい学校作りを地域と教育委員会の指導の下、知恵を絞り合っしていきたいと思います。その中でこの計画を当然活かしていかないといけないことを改めて認識しました。閉校になる小学校の土地利用について中学生から意見を出していただき、フィードバックの大切さや途中経過の説明などの必要性がわかりました。地域としても対応していかないといけないと思いました。</p>
委員	<p>資料3-2の10番に産後ケアに関する意見があります。現在、0歳児の訪問をしておりますが、1歳くらいまでは母親等が様々な場所へ相談に行っており、相談先としては病院の先生やカウンセラーなどを自分で探したり、出産した場所にあればそこに行ったりしているようです。しかし、ケ</p>

	<p>アの期間が短いため少し期間を伸ばせないかと思っています。1歳のこどもがいる家庭では、こどもを預かってもらっている間に2時間程度ケアをしてもらうようなサービスを今後受けられるのかお聞きしたいです。</p> <p>2つ目はこの計画を活かしていただきたいということです。</p> <p>また、3つ目は先ほどの子ども食堂について、福祉推進課から検討するという話がありましたが、地域でもどうしようかと思っており、子どもと名前がついているので、一人暮らしの方も入れた方がいいのか、限られた財源の中でどのように実施していくのかなどにもつながってきます。出雲市として子ども食堂を施策に掲げるのであれば、何かしらの答えを早めに出していただければ、取組が広がり、幅広い世代や多様な活動が生まれると思います。</p>
事務局	<p>産後ケア事業は比較的最近始まった事業であり、もともと産後4か月までの期間でスタートしています。その後、産後1年間はサポートが必要だということで拡大した経緯があります。</p> <p>全く同じような事業はありませんが、出雲市では2歳まで家事・育児をサポートする子育て支援をしています。事業を始めて日が浅いため、全ての人が利用するには至っていませんが、産後ケアや家事・育児サポートも含めて更にPRし、子育てをサポートしていきたいと思っています。様々な事業がありますので、その事業を組み合わせながらサポートしていくのが出雲市全体の考えとしてあります。</p> <p>メンタル的に心配のある方は、こども家庭センターという新しい組織もあるので、各個人、家庭の状況によって丁寧に支援しています。</p>
事務局	<p>子ども食堂について、出雲市では家庭の貧困を理由にスタートしましたが、今は居場所的な要素が強くなってきています。出雲市も30か所以上開設されており、定義を決めてしまうと皆さんの自主性を縛ることになると思っています。</p> <p>現在、市の補助条件としては、こどもの参加者は概ね3割程度、こどもに対して無料か低料金で提供、可能であれば毎月1回から2回は開催していただくこととしています。食材費は開催回数が月1回であれば5,000円、2回であれば10,000円を上限としています。少しでもこどもが参加していれば補助をしても良いのではないかと考えています。</p> <p>一昨年ヒアリング調査をした際に、コロナ禍のため弁当を作って配布している所もあり、弁当を持ち帰って家族で団欒をしてもらうという面では効果があると思います。貧困の家庭には優先的に配布をしたりなど工夫していただいております、できるだけ自主的かつ活発に取り組んでいただきたい</p>

	<p>と考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>本日いただいた意見を踏まえた修正箇所もあると思います。皆さんからいただいた意見をまとめさせていただき、内容については私と事務局で検討させて、その内容については一任させていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>資料4の55頁に出雲市保幼小連携という文言があります。保育園、幼稚園、小学校の連携も大変重要ですが、児童クラブについても文言も入れる必要があるのではないかと。例えば、医療的ケア児の受入れもしていますが、保健室もなく、保健師や医療的知識のある方もいない中で受入れをしていますし、教員の働き方改革に伴う学校の早帰りは児童クラブに影響します。このような状態を含め、お互いに連携を取りながら対処していく必要があると思います。課外授業、インフルエンザ等により急遽休校する場合など、関係者間の連携強化が不可欠だと思います。出雲市の場合、子ども未来部という部局が教育委員会とは別にありますので、その連携を何とかしていく必要があるのではないのでしょうか。せっかく計画を作成するので、そうしたものも今後取り組む必要があると思います。</p> <p>資料4の86頁にある児童クラブについて、現在2,700名近く受入れて、前年から約80名増えており、これから少子化が進む中でも入所希望者は増えていくと思います。しかし、施設数を3か所増やしたただけで受入れが可能かどうかもあります。約3,000名の入所者がいると仮定して1児童クラブで扱う人数が約60名、国では児童40名で職員2名体制が基本となっております。こどもの過ごし方として適正なのでしょうか。ワーキンググループの中で運営の在り方について検討するということだが、現在の運営委員会方式が限界にきているのではないかと、民間を導入して幅広い運営形態も構築していかないと受入れが難しくなるのではないかとということもあります。</p> <p>そうしたことを踏まえると、法人参入の働きかけを引き続き実施するだけでは難しいのではないのでしょうか。色々な運営形態を模索していく必要があります。計画中の表現も含め、出雲市全体の児童クラブのあり方を模索しないといけないと思います。松江市では児童が80～90名の児童クラブがあり、民設や公設児童クラブの指定管理等も行っています。運営の課題は、単年度ベースで0会計にして新年度に入りますので、クラブごとの自主的な運営に制御がかかるため、繰越金や積立金を設けるような制度にしていくことも必要ではないかと思っています。運営方法のあり方も含め、委員の皆さんのご理解と計画の中に反映して少しずつ自立していくことが大事ではないかと思っています。</p>

会長	<p>今のご意見は、問題提起かつ計画の文言を修正するという考えでよろしいでしょうか。それともまずは検討してもらおうということでしょうか。</p>
委員	<p>両方だと思います。資料4の86頁にある「引き続き実施する」という考えを変えていく発信は必要だと思います。</p>
事務局	<p>資料4の86頁の児童クラブの方針については、第4章にワーキンググループでの結果を詳しく記載していますが、その方針も含めて少し表現の修正を検討したいと思います。</p>
委員	<p>この計画は、幅広い範囲で数多くの取組が盛り込まれていますが、市や教育委員会だけでなく外部の協力を得ながら実施していくこともあります。市や教育委員会などの公的なセクターが前に進めていくことになれば、多くの所で費用を伴うこととなります。実現がどの程度見込めるのかわからない点があります。市の今後10年間の長期財政見通しが公表されていますが、今後5年間このペースで進めば32億円の財源不足が出てくると出ていました。その中で新しい事業がどこまでできるのか危惧しています。目指す方向を示すだけであれば良いですが、実際に計画を進めて行こうと思えるだけ実現に近づけるような対策が必要になってくると思います。進行管理も重要になってくると思います。</p>
会長	<p>今後、本会議では進捗状況を確認しながら進めていきますし、それに伴って予算をどうするかということにも影響するかもしれません。</p>
委員	<p>こどもたちの意見に私が回答したいことがあります。資料5-1の質問2で「イベントを増やす・地域との関りや活動を増やす」、「観光地を増やす・出雲を知ってもらう」、「まちの活性化」、「スポーツなどの練習ができる場所がほしい・増やしてほしい」という意見があり、非常に嬉しく思いました。具体的に言うと今月の23日に日御碕で、町中などを巡るイベントを開催します。本日の山陰中央新報にも掲載されていますのでぜひお子さんに伝えてほしいです。一番嬉しいのは9歳のこどもが「ボランティア活動を増やす」という意見を出していて、このようなこどもたちがよそから来た人と一緒に何か新しいことをするという事を見ることが出来る良い企画だと思います。</p>
会長	<p>ご紹介いただきありがとうございます。地域の活動は様々な可能性を秘めていると思います。</p>

	<p>その他、ご意見等ありましたらお願いいたします。</p> <p><質疑なし></p>
<p>会長</p>	<p>それではこれで終了させていただきたいと思います。委員の皆様ありがとうございました。事務局に進行をお返しいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>会長ありがとうございました。委員の皆様も長時間ありがとうございました。それでは閉会に当たりまして、子ども未来部長の金本がご挨拶申し上げます。</p>
<p>部長</p> <p>事務局</p>	<p>委員の皆様にはお忙しい中ご参加いただき、ありがとうございます。</p> <p>本年度は出雲市こども計画を策定する年度として、例年より多い4回の会議を開催させていただきました。この1年間、多くの貴重なご意見・ご助言をいただきありがとうございました。</p> <p>今回の計画は本会議のご意見を踏まえて修正したもので最終とさせていただきます、3月の市議会で報告したいと思います。本計画のパブリックコメントでは10名、こどもの意見として987名から意見をいただきました。これまでの市の計画でこれだけたくさんのご意見をいただいたことはなく、市民の関心が高いと感じています。</p> <p>来年度は計画5年間のスタートになる年度です。「こどもたち一人ひとりが主人公」という基本理念のもと、この計画が絵に描いた餅にならないよう実践・具体化していくことが大事です。今年の予算の重点6項目のうち「子ども・子育てに優しいまちづくり」として重点配分していく項目の一つとされており、計画の実践・具体化に向けて予算確保に努めて参ります。</p> <p>また、今回の計画ではこどもの意見反映が重要なポイントであり、ただ聞くだけではなくきちんと施策に反映して、結果をこどもたちにフィードバックすることが重要だと思っています。</p> <p>最後になりますが、委員の皆様の任期は2年間で、来年度も本会議への出席をお願いしますが、本会議に限らずそれぞれの立場で様々な場面でご審議いただきますようお願いしまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>4 閉会</p> <p>それでは以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>

